

阿蘇花野再生プロジェクト ステップⅡ

～放置人工林伐採による生物多様性豊かな草原の再生～

- 実施主体 NPO 法人阿蘇花野協会
- 実施場所 Pro Natura Reserve 阿蘇花野トラスト（阿蘇郡高森町野尻）
- 実施期間 平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月



◇背景・ねらい

NPO 法人阿蘇花野協会は、阿蘇地域の希少な草原性植物が集中する山東原野で 10ha の土地を取得し、ナショナル・トラスト活動を続けている。平成 16 年から 5 年間をかけ、放棄地 5ha を野焼き・草刈り・草集めなど伝統的な草原管理手法により、阿蘇の野の花が咲き誇る生物多様性豊かな草原に再生した。

平成 22 年度からは、新たに約 50 年間放置されていた杉の人工林 1ha を伐採するとともに、残された放棄地 4ha を野焼きによって草原に戻し、さらに草刈り・草集めなどの作業を行って、花咲く草原 5ha を再生している。しかし、伐採跡地は、まだクマイチゴやタラノキなどのパイオニア植物、セイタカアワダチソウなどの帰化植物が多いので、引き続き野焼きを行って草原として再生していく。また、切り株も多数残っていて草刈りや草集めに支障をきたしている現状であるので、伐採跡の切り株を効率的に除去する実験を行っていく。

◆実施概要

- (1) 伐採跡地の植生・植物相調査（平成 27 年 4 月～10 月）
- (2) 草刈り、草集め（平成 27 年 10 月）
- (3) 防火帯づくり・野焼き・灌木除去（平成 27 年 10 月～3 月）
- (4) 阿蘇野の花観察会（平成 27 年 4 月、7 月、9 月）
 - ・毎回 20 名前後の参加者でトラスト地の四季の植物を観察した。特に、放置人工林伐採跡の植生観察を参加者全員で行った。本年も伐採跡地にヤツシロソウやツクシトラノオが復活しているのを確認することができた。
- (5) トラスト地の茅刈り（平成 28 年 1 月～3 月）
 - ・昨年度からトラスト地の茅刈りを行って茅葺き屋根用の屋根材として利用する試みを行っているが、今年度は地元農家の協力を得て、3,360 束を生産することができた。（※阿蘇世界農業遺産基金の助成を受けて実施）



草集めの様子(会誌「花野たより」2016 年冬号より)

◆実施体制

阿蘇花野協会、阿蘇茅葺工房、地元農家、環境省

◆成 果

- ・阿蘇花野トラスト 10ha とそれに隣接する 5ha の土地、合計 15ha を草原として維持管理することができた。
- ・阿蘇野の花観察会は、年間 3 回で毎回 20～30 名の参加であった。
- ・伐採跡地の植生は、ススキが増加して伐採前被度 0% だったものが、伐採後に 0.2%、7.0%、29.7%、53.6% と毎年増加して、着実にススキ草原として再生している。伐採後 3 年目に 22.0% で目立っていたセイタカアワダチソウは、4 年目に 13.3% と減少傾向に転じ、ススキに隠れて目立たなくなりつつある。

◆実施者の感想

放置人工林伐採跡は、伐採後 4 年目でススキの被度が 53.6% となって、見た目はすっかり草原状態となっている。伐採前はほとんど植物がみられず土壌がむき出し状態だった場所が、わずか 4 年で草原に戻ることがわかり、植物の持つ潜在的な力に驚かされている。